

【芋煮会】は山形の風物詩

山形支部 武田 達郎

私の小学生の頃は学校の裏手に押切川が流れており、通学班ごとに持ってくるもの、例えば鍋は誰、杓子は誰、むしろは誰など決め、学校のリヤカーに載せて行ったものです。河原にはかまどなどを作る石はあるし、コの字に組んで鍋を載せ、先生がそれぞれの味見をしたものだ。今では懐かしい思い出である。

学校だけでなく、各職場でも忘年会まで続く、そしてお前のところは何回やったとくる。地元天童温泉でも、漆塗の大きめの椀に、ほとんどのホテル、旅館で決まって出てくる。それでも飽きないから芋の子汁は美味しいもんだ。

秋になると山形の馬見ヶ崎（まみがさき）河原は家族、グループでルーシートを敷き、場所を先取りして一杯になる。

（今年は大雪の冬でした。いろんな雪を歌い込んだ「津軽恋女」です。）

